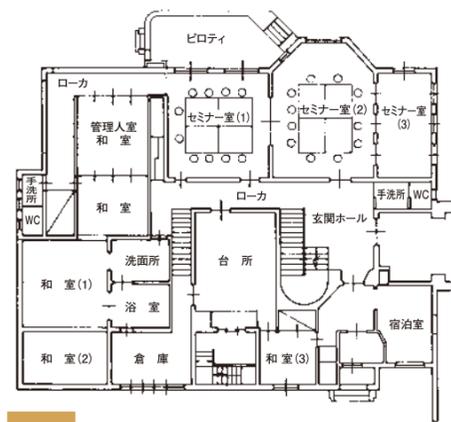
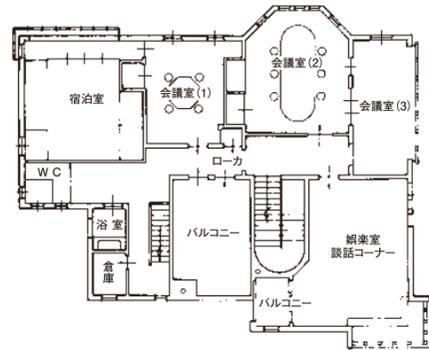


## セミナー室

研究会、ゼミナール、学術研究調査等を行うための施設として多くの学生、教職員に利用されており、関西地域における教育研究の拠点となっています。



**1F** セミナー室3室、宿泊室等。  
床面積/290.44G (約88坪)



**2F** 会議室2室、娯楽室・談話コーナー、宿泊室等。  
床面積/242.80G (約74坪)



建築された昭和初期はスペイン風建築が大流行したが、本施設は日本の生活様式にうまく溶け込んでいる。庭から建物を眺めると、左半分は三角屋根をもつ中世の教会を思わせ、右半分は軒の長い町家のような趣を呈しており、東西の意匠が一つの建物に融合されている。

## 見学について

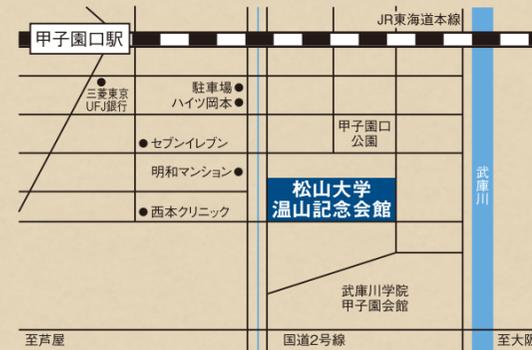
温山記念会館は一般の方の見学を受け付けています。(ただし本学の学生が利用していないときに限ります。)見学を希望される方は下記の要領でお申し込みください。

- 1 利用資格**  
本学の学生、教職員、卒業生、  
その他本学が特に認めた者
- 2 見学可能時間**  
月曜日～金曜日  
10:00～12:00および14:00～16:00
- 3 休館日**  
日曜日・祝祭日・年末年始(12月28日～1月4日)、  
その他本学が定める日

- 4 利用上の注意事項**  
利用の際は、「松山大学温山記念会館管理及び利用規程」等を遵守し、管理人の指示に従ってください。なお、施設設備及び備品などに損害が生じたときは、損害賠償等により原状に回復していただきますのでご注意ください。

- 【利用申込方法】**  
見学希望日の2週間前までに松山大学学生課に見学予約を申し出ていただき、所定の「利用許可願」を提出ください。見学許可者には利用許可証を発行いたしますので必ず見学当日にご持参ください。  
なお、緊急な事情により本学として使用の必要が生じたときや自然災害等により安全に利用することが困難なときは、利用許可後であっても許可を取消すことがあります。
- 予約受付時間：平日(月～金) 9:00～16:00
  - 申込先：松山大学学生課 (TEL 089-926-7149)
  - 提出書類：「利用許可願」(所定用紙)・「参加者名簿」・「日程表」

## ACCESS MAP



### 松山大学温山記念会館

〒663-8113 兵庫県西宮市甲子園口1丁目12-31  
(JR甲子園口から徒歩5分) 電話:0798-66-0199

## 【交通アクセス】

- ✈ 飛行機利用**  
松山空港 -----> 伊丹空港(大阪モノレール) ----->  
蛍池(阪急宝塚本線) -> 大阪駅(梅田) -> JR甲子園口
- 🚆 JR利用**  
松山 -----> 岡山 -----> 新大阪 -----> JR甲子園口
- 🚌 高速バス利用**  
松山 -----> JR三ノ宮(三ノ宮BT) -----> JR甲子園口

### お問い合わせ先 松山大学学生課

〒790-8578 愛媛県松山市文京町4番地2  
電話:089-926-7149 FAX:089-926-7156  
E-mail:mu-gakusei@matsuyama-u.jp

## 松山大学について

松山大学は1923(大正12)年、四国・愛媛の地にて、新田長次郎、加藤恒忠、加藤彰廉ら「三人」によって創設された、松山高等商業学校を前身とする私立大学です。「真実」「実用」「忠実」の「校訓三実」を教育理念として掲げ、学問と人間性の涵養をめざして社会に有用な人材育成に邁進しています。  
創立100年の歴史を経た現在では、5学部6学科(経済学部、経営学部、人文学部英語英米文学科、人文学部社会学科、法学部、薬学部)、大学院、短期大学部を有する総合大学となり、5,842名(2023年4月現在)の在学学生と、82,000名を超える卒業生を擁しています。



# 松山大学温山記念会館

Matsuyama University Onzan Memorial Center

【旧新田邸】



登録有形文化財(文化庁)  
ひょうごの近代住宅100選(兵庫県)  
西宮市都市景観形成建築物(西宮市) 選出



松山大学

# 松山大学温山記念会館

兵庫県西宮市

「松山大学温山記念会館」は1928(昭和3)年、本学創立の恩人、新田長次郎翁が娘婿にあたる建築家木子七郎氏(1884-1955 代表作 愛媛県庁舎、萬翠荘等)に設計を依頼し、当時としては最高の建材を用いて造られたスペイン風洋館と広大な庭園です。

本施設は長い間、新田邸として使用されていましたが、1989(平成元)年、本学に寄贈されました。「温山」とは新田長次郎翁の雅号にちなんで命名されたもので、当時の凝った意匠の存在感は竣工当時のまま、現在に至っています。



玄関から入ってすぐのホール兼階段室。上から見ると、寄せ木造りの床がエッシャーのだまし絵のように浮かび上がって見える。



Chojiro Onzan Nitta

## 新田長次郎(温山)翁 ●1857(安政4)年～1936(昭和11)年

本学三恩人の一人で、松山市山西の出身。20歳にして志をたて大阪に旅立ち10余年の歳月を経て日本初の動力伝動ベルトの製作に着手し、至難とされた帯革製造業の確立を始め、膠・ゼラチン、ベニヤの製造をも手がけるなど、日本産業の発展に多大な貢献をした。

青少年を愛し学問を愛する温山翁は、高等商業学校設立の提案に賛同し、設立に際しては、「学校運営に関わらない」ことを条件に、設立資金として巨額の私財を投じ、我が国の私立高等商業学校では第3番目の設置となる松山高等商業学校(本学の前身)を創設した。

本学では「学園創設の父」としてその功績が今日に伝承されている。



元ダイニングルームを利用した1階セミナー室はクラシックなデザイン。床や天井の意匠は部屋ごとに異なる。



一枚板でつくられた違い棚。一枚板で筆返しのをりを削り出すのは至難の業だという。



2階会議室。ステンドグラスはアール・デコ調。



- 1 池の畔に見える扉は防空壕。邸宅竣工の翌年に造られたもので、当時は未曾有の大恐慌前夜。温山翁は後に起こる戦争の影をいち早く感じていたのかもしれない。
- 2 細部まで丁寧にアラベスクの幾何学模様が施された玄関扉とタイル。
- 3 玄関脇の小窓に使われている「牛の目状ガラス」は非常に珍しいもの。
- 4 温山翁自ら指揮して造らせたという広大な池泉回遊式庭園。噴水を備えた洋風の庭と池を配した純和風の庭から成っている。

- 5 1階、2階ともに東の一角は町屋風の和室ゾーン。縁側からは美しい庭園を眺めることができる。
- 6 2階談話室のビリヤード台。通常、ビリヤード台は重すぎて床が傾くため2階には置かないのだが、その堅牢さには自信があり、実際、阪神大震災時でもびくともしなかった。奥には当時としては先進的だったセントラルヒーティングが見える。



5



6

ノスタルジックな洋館の時代の記憶にふれる。